

19

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックのような世界的な悲劇が、同じ船で航海する世界共同体としての意識を一時的に目覚めさせてくれたことは確かです。一人で救われるのではなく、ともに救われる道しかなかったことをわたしたちは思い出しました。<回勅兄弟の皆さん> \$327

【写真】長崎「みんなの東進」で配布した持ち帰り用キーマーカールー
©長崎おとな食事業実行委員会

22

ウクライナの脆弱な立場の人の生活を助けるカリタスマルドバの活動への支援に、深い感謝の意を表します。モルドバ共和国の貧困を克服し、最も貧しい人々への愛、関心、ケアを提供するために、カリタスマルドバ(日本の皆さん)からの支援は私たちにとても非常に重要です。<カリタスマルドバからのメッセージ>
【写真】2022年1月1日付のカリタスマルドバのウェブサイトをよ

20

必要なのは、さまざまな表現手段と社会参画です。教育は、一人一人ひとりが自分の将来の設計者となるためにあるのです。そこにおいては、運轉の原理と切り離せない補充世の原理が価値を示します。<回勅兄弟の皆さん> \$1877

【写真】地域の若者による小学生を対象とした放課後授業クラスの開講式
に集まった子どもたち©Caritas Mwanza (タンザニア、ムワンザ地域)

23

あなた自身とあなたを愛する人々を大切に!
<10月3日、ミサイル攻撃を受けた際のウクライナ>
ライナナからのメッセージ&より抜粋>
【写真】カリタスマルドバのFacebookの記事

21

あなたの心が何かを伝えたら、それに耳を傾けて行動する必要があります。すべての人に人間の顔があります。一人ひとりの人間に目を向け寄り添うこと、これこそがカリタスの支援であり、その素晴らしいことです。<カリタスマルドバ事務局長の言葉>

【写真】ウクライナからスロベニアに避難する女性と幼子
©Fabian Berg/Caritas Germany

24

見よ、わたしは使者を送る。/彼らはわが前に道を備える。/あなたたちが待望している主は/突如、その聖所に来られる。/あなたたちが喜びとしている契約の使者/見よ、彼ら来ると万軍の主は言われる。<マラキ3:1>

【写真】ウクライナからスロベニアに避難する女性と幼子
©Tony Fitz/Caritas Slovenia

援助実績一覧(2022年5月~8月)

援助国/地域	援助活動名	援助団体	援助額	(円)
国際カリタス緊急支援要請	マダガスカル	マダガスカル	1,352,100	
	エリトリア	CAFOD 東部アフリカ部門	1,378,400	
	マリ	カタスマリ	1,424,300	
	ハルスチナ	カタスエルサレム	1,424,300	
	ブルキナファソ	カタスマルボキナファソ	1,424,300	
	ハキスタン	カタスマキスタン	1,427,500	
	スリランカ	カタスマスリランカ	1,388,200	
	ニジェール	カタスマニジェール	1,373,300	
	インド	カタスマインド	1,416,800	
	ハンガリー	カタスマハンガリー	1,346,600	
	ハキスタン	カタスマハキスタン	1,376,300	

援助国/地域	援助活動名	援助団体	援助額	(円)
ウクライナ	ウクライナ戦争下での継続的支援	カリタスマルドバ	13,521,000	
スロバキア	紛争の影響を受けたウクライナ難民への緊急対応	カリタスマルドバ	6,892,000	
スロバキア	同上(追加)	同上	7,090,000	
ポーランド	ウクライナ戦争による被災者のサポート	カリタスマルドバ	7,137,500	
チェコ	ウクライナ難民への総合的人道支援(追加支援)	カリタスマルドバ	7,090,000	
エチオピア	気候変動適応・社会経済力強化プロジェクト	カリタスマルドバ	3,402,351	
ハキスタン	ハンガリーにおける(食料)緊急支援	カリタスマルドバ	1,617,979	
東京教区	コロナ禍で孤立した元受刑者・依存症者のための24時間支援事業	カリタスマルドバ	1,760,000	
さいたま教区	コロナ禍で生活困難・ホームレス状態にある方の住居と生活を守るための相談支援・住居支援事業	カリタスマルドバ	2,000,000	

編集後記



今年もカリタスマルドバの活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。今年にはロシアによるウクライナ侵攻にはじまり、世界各地では大規模な水害、熱波、干ばつ等が頻発して、多くの人が生命や生活基盤を失いました。人間の活動に起因する様々な影響が、社会で最も弱くされた人たちの暮らしを脅かすことを目の当たりにした一年でした。来年にはTogether Weキャンペーンの「行動の年」がはじまります。ともにケアの文化を育むための一歩を踏み出しましょう。

We are Caritas

No.26(2022年冬号)
通算発行番号No.332

郵便振替番号 00170-5-95979

宗教法会カトリック中央協議会 カリタスマルドバ
発行人 成井大介
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
TEL:03-5632-4439 FAX:03-5632-4464
Email:info@caritas.jp URL https://www.caritas.jp

f https://www.facebook.com/caritasjapan

we are **Caritas**



NO.26

2022年
冬号

通算発行番号No.332

You can read the text of this newsletter with
Google Translation @ <https://www.caritas.jp>



「ようこそイエスさま」という聖歌は、主イエスの「よわさ」や「まずしさ」をとおして、

歓迎と感謝、賛美へと、主の降誕祭を待ち望む人々を包みます。

主の誕生を祝うために旅をしてきた占星術の学者たちは、喜びのうちに贈り物を幼な子イエスに

献げました。またヘロデ王が幼な子を殺そうとしていたので、聖家族はエジプトに逃避しました。マタイ福音

書第2章が告げる主の降誕の物語です。多くの人に喜びをもたらす人間の誕生が、いのちの戦いの始まり

でもあることを思い起こします。

今、皆が暮らす家である地球の叫びと人々の叫びがあふれています。カリタスマルドバは、世界中のカリタスと

ともにキャンペーン「TOGETHER WE(トゥギャザーウィー)」を展開しています。カトリック教会が「ともに歩む」という

原点に立ち返って旅をしていることにつながっています。幼な子イエスの旅によって、どんな人の旅も時と場所を

超えてつながっていると思うのです。

力がなく弱い存在で、周辺部へと追いやられ、うずくまっているわたしたちの兄弟姉妹の声を聞く人々のうちに、ともに

歩んでくださる幼な子イエスは、希望の光を灯されます。わたしたち一人ひとり小さなものですが、誰かのいのちを

支える者でもあります。

わたしたちの旅が、ともにケアの文化をはぐくみ、「すべてのいのちを守るため」のはたらきをともにしてくださる兄弟

姉妹の皆さんと、絆をもっと深めることができますように。

瀬戸高志神父(カリタスマルドバ 秘書)



We are Caritas 26号は、クリスマス特集号となります。内面には「カリタスマルドバ 祈りのリース」として、本年度のカリタスマルドバの支援先に関する写真を飾ったリースを縦型に配置しています。リースは、12月1日から24日までのアドベントカレンダー形式となっており、リースの下には、支援先の皆さんの声、叫びや、回勅「兄弟の皆さん」、「ラウダート・シ」の言葉を掲載しています。すべての兄弟姉妹が、ともに、よき主のご降誕祭と新年を迎えることができますように…。



ここにあなたが想う大切な人にもむけて、
メッセージ、祈りを書きましょう

2022 TOGETHER WE

カリタスジヤパン

祈りのリース

- 1 2022年2月24日、たった1日ですべてのウクライナの子どもたちは戦争の子ども(戦争体験者)になりました。彼らが再び、普通の子ども時代を過ごすのどのくらいかかるのでしょうか。<カリタススペース(ウクライナ)のTwitter>
【写真】親と一緒にモルドバ国境にたどり着いた子どもたち
@Marin Fidler/Caritas International
- 4 私たちのところに来る子どもたちは、家族や両親のいない施設で暮らしています。戦争も彼らも知らないから、未知の土地に行くことを余儀なくされました。小さな難民たちは長い旅の後に、ここがすぐに自分たちの場所であることに安堵し、落ち着きました。その日の夜は、重度の視覚障害を持つ男の子の業績らしい歌声でコンサートとなりました。<現地スタッフの言葉>
【写真】ウクライナからの避難民を安全な場所(セント・トランジットセンター)へ向かう孤児や障害のある子どもたち
@Caritas Romania
- 7 私はありったけの荷物を手に持ってそこに立っていました。娘たちは目に涙をため、恐怖に震え、私のそばにいました。私の心は必死に叫び、抗議、恐怖を感じました。目の前には国境、後ろには自分の人生、家、国……(このような90年代の戦争体験を経て)今は、自分に与えられた、何物にも代えがたいものを差し出したいと思うようになりました。<ボランティアスタッフの言葉>
【写真】ハンガリー国境近くのセンターで働くボランティアスタッフ
@Caritas Hungary
- 10 成長は促したものの、全人的発展には資することのなかった、経済的法則があります。富は増えても格差が伴い、そこからは、「新しい貧困の形影が出現」しているのです。真因はつねに、歴史の実際の時点の現実的な可能性の文脈で、分析され、理解されるべきです。<回勅「兄弟の皆さん」\$21>
【写真】多国籍と難民の家族の生活を劇化するプログラム(ドナトの音楽劇場(ドナト))
- 13 示されているのは、自分の所属する集団の仲間かどうかにかかわらず、助けを必要としている人の前に行きつけるようにということです。ですからこれからは、助けなければならない「隣人」がいる、ではなく、他者の隣人となりなさい、との呼びかけを聞く、そういたく思います。<回勅「兄弟の皆さん」\$81>
【写真】来てくださる人を歓迎する入国ロビーの案内サイン。(リカバリーセンター)
- 16 気候は共有財の一つであり、すべての人のもの、すべての人のためのものです。人類は、この温暖化と闘うため、あるいは少なくともそれを生み出し悪化させている人為的要因と闘うために、ライフスタイルを変え、生産と消費に変化をもたらす必要があることを認めるよう求められています。<回勅「フワダートン」\$23>
【写真】食糧支援を受けた洪水の被災者(バキスタン、フアザラバード)
@Caritas Pakistan

- 2 彼女は英語もルーマニア語も話せませんでした。しかし、その手でハートを描いているのです。そして、算えた言葉で「ありがとう!」と書いてくれました。<現地ボランティアスタッフの言葉>
【写真】ウクライナからの避難民を受け入れるマリア難民センター(ルーマニア)の様子
@Informatia Zilei
- 3 私は遊びに来たわけではありません。他に選択肢がなかったからです。お金や家が欲しいわけではなく、ただ家族の安全を確保したいだけなのです。<家族5人、地中海をいかだで渡っていった際に救出されたアラブ系難民出身の男性の言葉>
【写真】カリタスマリア移民の家。
@Caritas Mali
- 5 私は遊びに来たわけではありません。他に選択肢がなかったからです。お金や家が欲しいわけではなく、ただ家族の安全を確保したいだけなのです。<家族5人、地中海をいかだで渡っていった際に救出されたアラブ系難民出身の男性の言葉>
【写真】カリタスマリア移民の家。
@Caritas Mali
- 8 わたしたちは、他人にとりわけいちばんの弱者に対し、無関心でいる誘惑に取り巻かれていて、必要が分かろうとも、効果とは程遠くとも、その人へのサポートを発揮できるよう、誰もが人生の旅程において寄り添いを得ることが、効率的かつ安定的に保障されるような努める社会です。<回勅「兄弟の皆さん」\$110>
【写真】ケアセンターでの感染症の小児プログラム(オランダ)
- 11 人間的で兄弟的な社会とは、必要最低限のものが保障されるだけでなく、多くの利潤を産まないとしても、時間がかかろうとも、効率とは程遠くとも、その人へのサポートを発揮できるよう、誰もが人生の旅程において寄り添いを得ることが、効率的かつ安定的に保障されるような努める社会です。<回勅「兄弟の皆さん」\$110>
【写真】ケアセンターでの感染症の小児プログラム(オランダ)
- 14 次のシーズンに向けて作物を植える必要があるのですが、水がありません。何をしたらよいのかもわかりません。<1日1食しか食べられない子どもたちのために24時間近く歩いて水を得ている母親の言葉(エチオピア)>
【写真】エチオピアの難民(かんばつ)の様子
@Caritas International
- 17 技能実習生のかたから「みんなが背負うかばん(ランドセル)は同じです。それは何のために同じにするんですか?」という質問がきて、子どもたちは「どうしてだろう...?と考えを巡らせています。」「自分の当たり前が当たり前でない!」ということ対話から感じようでした。<同僚したスタッフの言葉>
【写真】北海道の小学生によるランドセルからの技能実習生へのインタビュー
@地球対話クラブ

- 3 今、何故ここにいるのかわかりません。毎晩、お父さんにその理由を聞いています。<2022年3月、家族でウクライナからモルドバに避難した男の子の言葉>
【写真】男の子(9歳)と彼の妹
@Caritas Moldova
- 6 わたしたちは、新たなプロセスや変革を始める生み出したりできる、共同責任の場に置かれています。備付いた会社の回復と支援に、積極的に参加しなければなりません。<回勅「兄弟の皆さん」\$77>
【写真】笑顔いっぱいのランドセルキャンペーン(カタルニア)の子どもたち
@PAP/Darek Doimanowicz
- 9 人間環境と自然環境はともに悪化します。人間や社会の悪化の原因に注意を払うことなしに、環境悪化に適切に立ち向かうことも弱い人々に影響します。<回勅「フワダートン」\$48>
【写真】2022年2月の洪水で、食料や住まい、生活物資の支援、農業や漁業など生計を立て直す支援を行っている(フィリピン)、洪水支援で贈られたキット
@Caritas Philippines
- 12 毎晩、ここに爆弾が落ちないように、そして家族と一緒にられるように祈っています。忙しすぎるために、私たちはたくさんゲームをしたり、一緒に料理をしたり、手工芸品を作ったりしています。彼ら(里子)を支援する手段として、お金よりも大切であると思っています。<回勅「兄弟の皆さん」\$110>
【写真】8人の里子との暮らしの詩
@Michael Franci / Cordaid
- 15 先ず衣食住を整え、安心を与え、安らぎの場を提供することが一番。そこから今後の生活についての相談を受けながら、ともに考え、行政、入国管理事務所などへの相談と一緒に出掛け、彼らの将来を考えていきます。仲間内でネット情報が溢れ、悪い情報に乗せられてしまうこともあり、少しでも希望が満たされるように導いていくことが大事な役割です。<愛の実行運動本部スタッフの言葉>
【写真】シエラレオネの難民の交換会の様子
@愛の実行運動本部
- 18 私の人生は今とは違っていました。優しい性格は仕事には役に立ちません。限られた200のキット配布の時、201人目の人に「すみません、明日来てください」と言える強さを持たなければならぬから…。でも私たちは最善を尽くします、さらにさらに尽くすのです。<現地カリタススタッフの言葉>
【写真】ウクライナのオデーサ地区のカリタス、希望の家
@Caritas Spes-Ukraine